

7 章 橋台・橋脚工

7.1 橋台・橋脚工

7.1.1 橋台・橋脚工 (1)

7.1.2 橋台・橋脚工 (2)

7章 橋台・橋脚工

7.1 橋台・橋脚工

7.1.1 橋台・橋脚工(1)(構造物単位)

1. 適用

橋台及び橋脚の施工に適用する。なお、以下の適用を外れる橋台・橋脚については、「橋台・橋脚工(2)」を適用する。

1-1. 適用出来る範囲

- (1) 構造物高さ5m以上25m未満のT形橋脚（躯体が円形及び小判型含む）の場合
- (2) 構造物高さ5m以上20m未満の壁式橋脚（躯体が小判型含む）の場合
- (3) 構造物高さ12m未満かつ翼壁厚0.4m以上0.6m以下の逆T式橋台の場合

1-2. 適用出来ない範囲

- (1) 同一構造物で、フーチングと躯体のコンクリート強度が異なる場合。
- (2) フーチングのみの工事、又は躯体のみの工事の場合。
- (3) 化粧型枠を使用する場合
- (4) 手摺先行型枠組足場以外の足場を使用する場合

2. 数量算出項目

橋台・橋脚本体コンクリート（橋台においては翼壁を含む）、鉄筋の数量を区分毎に算出する。

また、基礎砕石（敷均し厚20cm以下）、均しコンクリートについては必要の有無を確認する。

- 注) 1. 鉄筋については「第1編（共通編）4.3.1鉄筋工」によるものとする。
 2. 基礎砕石（敷均し厚20cmを超える場合）については、「第1編（共通編）9.1基礎・裏込砕石工」によるものとする。
 3. 冬期の施工で雪寒仮囲いが必要な場合については、「第1編（共通編）11.6.2雪寒仮囲い工」によるものとする。
 4. 逆T式橋台において水抜パイプが必要な場合は、別途考慮するものとする。

3. 区分

区分は、規格、形式とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報					
			規格	形式	必要性 の有無	単位	数量	備考
橋台・橋脚本体コンクリート		A	○	○	－	m ³		注) 1 注) 2
基礎 砕石	敷均し厚20cm以下	C	×	×	○	－		
	敷均し厚20cm超え	B	○	×	－	m ²		
均しコンクリート		C	×	×	○	－		
鉄筋		B	○	×	－	t		
足場		C	×	×	(×)	－		注) 3
水抜パイプ		B	×	×	－	－		逆T式橋台のみ 必要に応じ計上

「橋台・橋脚本体コンクリート」は、BIM/CIMモデルより体積を算出し、属性情報を用いて規格・形式を区分することより「A」を適用する。

「基礎砕石」の「敷均し厚20cm以下」及び「均しコンクリート」は、官積算時において率計上する必要があるかないかを確認する項目のため「C」を適用する。

「基礎砕石」の「敷均し厚20cm越え」は、BIM/CIMモデルより面積を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。

「鉄筋」は、簡易な形状を用いて表現した単位質量と延長より質量を算出し、属性情報を用いて規格を区分することより「B」を適用する。

「足場」及び「水抜きパイプ」は、歩掛の中に含まれるため、BIM/CIMモデルを作成する必要はない。しかし、注釈にあるような特殊な構造物においては、簡易な形状を用いて表現した面積や個数を算出するため「B」を適用する。

- 注) 1. 橋台・橋脚本体コンクリートの規格はコンクリート規格とする。
2. 橋台・橋脚本体コンクリートの形式は、逆T式橋台、T型橋脚、壁式橋脚とし、各形式における打設量区分については、3. (2)を参照のこと。
3. 雪寒仮囲い等で足場が必要な場合及び特殊な足場を別途計上する必要がある場合は、必要の有無を「×」とし別途算出するなお、一般的な施工をする場合は必要の有無を記載する必要はない。

(2) 形式別打設量区分

1) T型橋脚

構造物高さ区分 打設量区分	5m以上 10m未満	10m以上 15m未満	15m以上 25m未満	
100m ³ 以上 300m ³ 未満	○	—		
300m ³ 以上 500m ³ 未満	○			
120m ³ 以上 220m ³ 未満	—	○		
220m ³ 以上 440m ³ 未満		○		
440m ³ 以上 650m ³ 未満		○		
290m ³ 以上 910m ³ 未満				○
910m ³ 以上 980m ³ 未満				○

(注) 打設量は、1基当たり全体の打設量とする。

2) 壁式橋脚

構造物高さ区分 打設量区分	5m以上 15m未満	15m以上 20m未満
100m ³ 以上 280m ³ 未満	○	—
280m ³ 以上 700m ³ 未満	○	
250m ³ 以上 520m ³ 未満	—	○
520m ³ 以上 700m ³ 未満		○

(注) 打設量は、1基当たり全体の打設量とする。

3) 逆T式橋台

構造物高さ区分 打設量区分	5m未満	5m以上 7m未満	7m以上 9m未満	9m以上 10m未満	10m以上 11m未満	11m以上 12m未満
50 m ³ 以上 140m ³ 未満	○					
140m ³ 以上 260m ³ 未満	○					
50 m ³ 以上 90 m ³ 未満	—					
90 m ³ 以上 160m ³ 未満		○				
160m ³ 以上 310m ³ 未満		○				
70 m ³ 以上 110m ³ 未満		—	○			
110m ³ 以上 210m ³ 未満			○			
210m ³ 以上 310m ³ 未満	○					
130m ³ 以上 280m ³ 未満	—	—	—	○		
280m ³ 以上 310m ³ 未満				○		
230m ³ 以上 370m ³ 未満			—	—		○
370m ³ 以上 650m ³ 未満						○
230m ³ 以上 320m ³ 未満						—
320m ³ 以上 560m ³ 未満			○			
560m ³ 以上 650m ³ 未満			○			

(注) 1. 上表は翼壁厚0.4m以上0.6m以下に適用する。

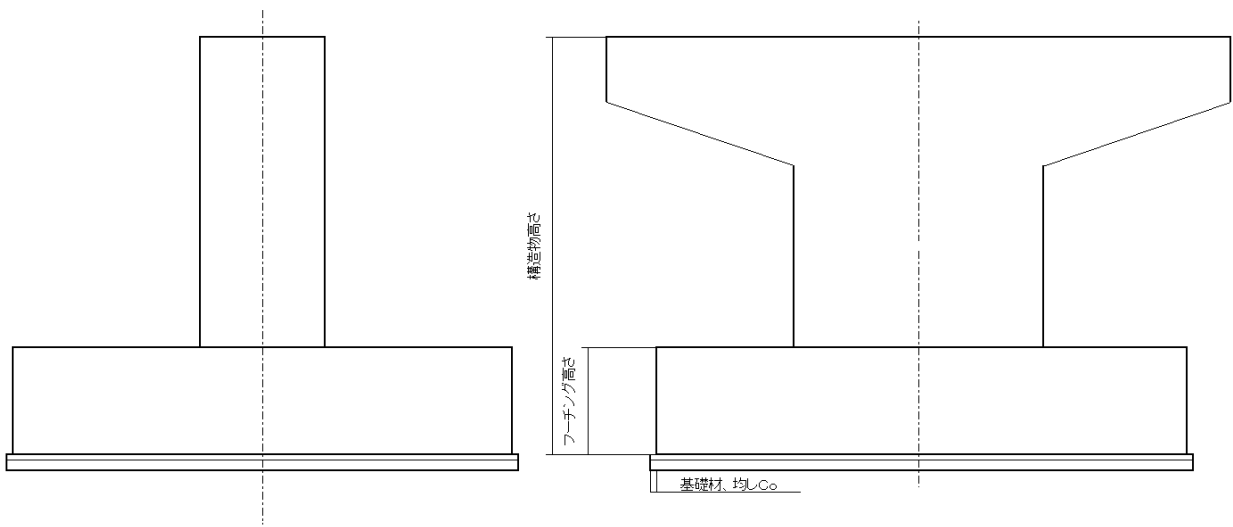
2. 打設量は、1基当たり全体の打設量とする。

4. 数量算出方法

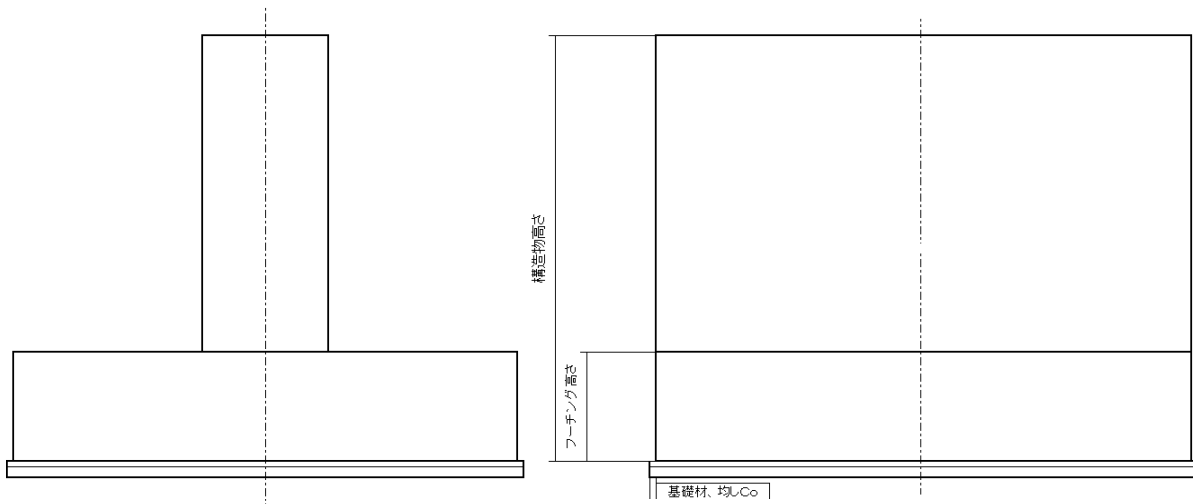
数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるものとする。

5. 参考図

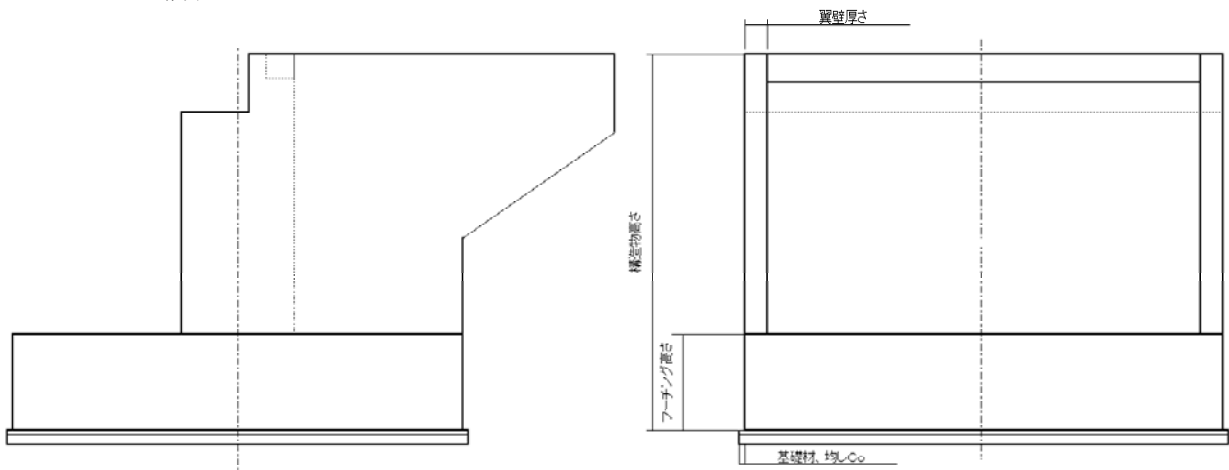
T型橋脚



壁式橋脚



逆T式橋台



7. 1. 2 橋台・橋脚工(2)

1. 適用

橋台・橋脚工（1）適用範囲を外れた橋台・橋脚のコンクリート打設に適用する。なお、適用可能な形式は、T形橋脚（円形及び小判型含む）、壁式橋脚（小判型含む）及び逆T式橋台とし、同一構造物で、コンクリート強度が異なる場合、フーチングのみ又は躯体のみの施工の場合は適用出来ない。適用を外れる橋台・橋脚については、「コンクリート工」等により別途計上する。

2. 数量算出項目

橋台・橋脚本体コンクリート（橋台においては翼壁を含む）、型枠（化粧型枠）、鉄筋、足場、支保等について、数量を区分毎に算出する。

- 注) 1. コンクリート（橋台・橋脚本体コンクリート）については、「7. 1. 1 橋台・橋脚工（1）」によるものとする。
ただし、形式については、特に指定は行わない。
2. 型枠については、「第1編（共通編）4. 2 型枠工」によるものとする。
 3. 鉄筋については、「第1編（共通編）4. 3. 1 鉄筋工」によるものとする。
 4. 足場については、「第1編（共通編）1 1. 4 足場工」によるものとする。
 5. 支保については、「第1編（共通編）1 1. 5 支保工」によるものとする。
 6. 基礎砕石については、「第1編（共通編）9. 1 基礎・裏込砕石工」によるものとする。
 7. 均しコンクリートについては、「第1編（共通編）4. 1 コンクリート工」によるものとする。
 8. 冬期の施工で、雪寒仮囲いが必要な場合については、「第1編（共通編）1 1. 6. 2 雪寒仮囲い工」によるものとする。
 9. 逆T式橋台において、水抜パイプが必要な場合は別途考慮する。